

<CIEC 第 55 回研究会報告>

テーマ：iPod の語学教育への活用・実践そして可能性

日時：2005 年 10 月 16 日(日) 13:30 ~ 17:00

会場：大学生協杉並会館 2 階会議室 (201、202、203)

司会：鳥居隆司 (椋山女学園大学)

今回の研究会は、前回 6 月に、本学会の団体会員と個人会員との研究における連携を深めることを目的として企画された第 53 回研究会：テーマ「iPod の語学教育への活用・実践そして可能性」が、大変好評だったことを受けての、第 2 弾として位置づけることができます。

デジタルミュージックプレーヤー市場に旋風を巻き起こした iPod は、ハンディサイズで、ポケットにも簡単に滑り込んで、聞きたいときはいつでもどこでも片手で操作できます。この iPod を音楽だけで終わらせず、英語学習に価値を見出してみてもどうだろう、という観点からこの研究会のテーマが決まりました。英語を学ぶ上で一番必要なことは、学習を「継続」させることです。しかし、英語を使わなくても事足りる日常生活において、毎日続けることは決して容易ではありません。そこで、携帯電話と同じくらい愛用している iPod に英語教材を入れておけば、ちょっとした空き時間に、気が向いたときに英語の世界に飛び込めます。

最初に、アップルコンピュータ株式会社の秋間氏 (チャンネルセールスアカウントマネージャー) より、最新の iPod nano についてご紹介いただきました、続いてエデュケーション部の平野氏より、各教育機関での語学学習への iPod 活用事例などについてお話していただきました。具体的には、デジタルミュージックプレーヤー (DMP) における iPod の教育ツールとしての優位性を、「直感的な操作性」、「記憶容量」、「画面表示領域の大きさとテキスト機能」、「豊富な周辺機器」の観点から説明されました。

「直感的な操作性」：スクロールホイールとボタンを統合した iPod は簡単に親指一つで楽々と操作ができ、右利き、左利き関係なく、ボタンの配置もシンプルなので慣れてしまえば筆記具は持ったままで操作することが可能。教材音声データは秒単位で巻き戻すことができ、気になるポイントはすぐに何度でも聞き直すことも可能。

「記憶容量」：例えば東京リーガルマインド様における司法書士のような 1 年半にも及ぶ講座では、カセットテープの本数は約 350 本にも及ぶが、それだけの音声データを iPod はたった 1 台に収めることができる。系統立てられたライブラリを参照することにより聴きたい講座にすぐに辿りつくことが可能。設備コストもほとんど掛らず、データのインストール作業も容易。iPod へのデータインストール作業は iTunes とクライアント端末があればシンプルなインターフェースにより簡単な操作で行える。

「画面表示領域の大きさとテキスト機能」「豊富な周辺機器」：テキスト表示のリンク機能を活用することにより、テキストデータからテキストデータへ、またテキストから音声データへとリンクを張ることが可能になる。iPod を選ぶ大きな理由の一つには、他社の製品に比べ iPod 用の周辺機器の数が群を抜いていることがあげられる。

以上のようなハードウェア面でのメリットのほか、最近話題となっている Podcasting についても解説されました。Podcast とはウェブ経由で配信されるメディアで、フィード(URL) を「購読」することで自動的にコンテンツを受信できる機能で、それはハードディスク内蔵の DVD レコーダーでテレビ番組を予約録画して楽しむことに似ているということです。iTunes に統合された podcasting のコーナーには英語系の語学コンテンツも充実しており、iPod や iTunes を利用しているユーザーに、これまでにない方法で新しいコンテンツを探し、学内及び学外で学ぶことの方法を提供すると、事例をあげて解説されました。そして、iPod は、「音声データを活用して学ぶ」という行為を、従来のような時間と場所に縛られない、より身近なものに変える魅力を持ったツールであることを、平野氏は強調されました。

次に、資格の総合スクール東京リーガルマインドでは、iPod の圧倒的な記憶容量を利用して膨大な講義を収録し、iPod クラスを開講されていますが、今回は iPod を利用した新しい資格学習講座の「TOEIC 基礎力養成講座 iPod

クラス」などに関する話題を、斉藤氏（WEB 事業部制作課長）が提供してくださいました。東京リーガルマインド（通称：LEC）の会社紹介のあと、LECの音声教材がこれまでカセットを主メディアとしていたものを、容量と汎用性の面から、MD、CD 等の他のメディアと比較しながら iPod へ到達したいきさつを、「LEC with iPod の流れ」として紹介され、TOEIC 基礎力養成講座の教材例（リスニングとシャドーイング）を、デモンストレーションを交えて説明されました。受講者からは、「カセットに比べて音質もきれいで聞きやすい。」「電車内で本を広げたり、学校内で資格の勉強をするのが正直恥ずかしいけれど、iPod なら勉強していないフリができてよい。ライブに差をつけたという感じになります。」という好意的なコメントもある一方で、「iPod を持っているのに、音声だけダウンロードできる様にして欲しい。」という経済性・効率性を求める声もあり、今後の開発への示唆が得られたと言及されました。

最後に、CIEC の外国語教育研究会では、「VOA(Voice of America)プロジェクト」として、VOA 素材から外国語 e ラーニング教材の開発を行ってきました。今回は、上村氏（北九州市立大学）より、VOA 素材から外国語学習教材を iPod を利用した教育に使用できる英語教材の作成に関する具体的な方法についてわかりやすくお話いただきました。以下は上村氏が記述された報告書です。

「iPod への語学教材取り込み -VOA 素材の活用について」

北九州市立大学国際環境工学部 教授

上村 隆一

まず、語学学習機器として見た iPod が、いかに従来の CALL および e-Learning システムで採用されてきたハードウェア、ソフトウェアと異質なものであるかを述べた。端的に言えば、PC に依存するかぎり不可能であった「いつでも、どこでも学習できる環境」が iPod によって簡単に構築できてしまうということである。もちろん、将来的なメディアの多様化、ファイル数の急激な増大を考慮すれば、本体内蔵の検索機能が全く不十分で、画像・音声とテキストの相互リンク・同期が取れないなど重要な技術的欠点はあるが、操作性および携帯性の良さは何物にも代え難い。その上、iTunes+Podcasting という強力なコンテンツ管理と自動更新ツールが教材作成・登録作業を簡素化してくれるので、教師が授業用の教材を短時間で準備し、随時 RSS 対応のサーバに追加していくことで、学習者側に教材データベースから自動配信することも可能になる。

次に、語学学習用の教材を iPod に取り込む具体的な手続きについて説明した。今回は、特に外国語教育研究会で取り組んできた VOA 番組素材の共同利用について紹介し、同素材を iPod 対応として教材に活用するという前提で、入力・編集/加工・変換・転送の各手続きを実演操作によって示した。

最後に、今後の課題として、iPod が真に語学教育に特化した学習機器として活用されるためには、以下の点が重要であることを強調して、講演をしめくくった。すなわち、(1) 音声・テキストの同期と相互リンク機能の付加 (2) アカデミック価格設定などの教育機関向け特別サービス (3) HyperCard で経験したような、ボトムアップ型教材開発を促進するソース公開とツールの充実、の3点である。

なお、当日参加者から寄せられたアンケートでは、「i-Pod と音声コンテンツの現状がよく理解できた。」「i-Pod の具体的な教材制作方法に関する情報は有益であった。」「音声をダウンロードさせた i-Pod を生徒にどのように利用させたらいいのか今後の実践研究例を聞かせてほしい。」という、iPod への期待と具体的な可能性を求めるものが多くありました。

第一弾に続く、2 回目の参加者も多く、当日参加者も複数おられたことから、教育面での iPod 利用への関心の高さが際立つ研究会となりました。

(文責：吉田 晴世)